

白樺学園高等学校包括連携協定事業（1学年）総括（案）

1 目的

包括連携協定に基づき、「議会活動の認知度向上」を図るとともに「若い世代の考えを政策に反映」し「まちづくりに参加する機会」を目的とする。

2 開催日程・対象者

- (1) 令和4年1月25日（火）
～1学年B・A・D・C組（鈴木・黒田・中村・常通）
- (2) 令和4年1月26日（水）
～1学年E組（黒田・鈴木・常通）

3 実施内容

- (1) 事前学習（※コロナ禍のため事前学習のみの実施）
昨年まで実施していた議会体験の時間を拡大・充実させる。
そのため、議員が説明者となり学校を会場に事前学習を実施する。

4 実施事業振り返り

- (1) 学校の意見・感想
 - ・ クラスによって反応の差はあったが、全体的に良い経験だった。議場体験も予定通り実施できればさらに良かった。次年時に2年生としての実施を検討していきたい。
 - ・ 今年度の実施計画は完遂できなかったが、次年時の1学年にもこの内容で実施をしたい。
- (2) 議会の意見・感想
 - ・ 昨年からの課題とされていた「事前学習」の実施が学校の理解のもとで、実現したことは今後の事業の取り組み方のヒントになると感じた。
 - ・ コロナの影響で「議場体験」が実施できなくなり、あらかじめ「事前学習単体」での目的と成果を共有しておく、より事業効果が明確になったと感じた。
 - ・ 学校へ出向いた初めての「事前学習」の取組みとなり、議会と学校が相互に協力でき、包括連携協定事業の目的は達成されたと考える。
 - ・ 事前準備に工夫して臨んだが、生徒の視点での理解度等不安の中での「事

前学習」の時間だった。

- ・若い世代との交流を感じ、教壇に立てたことは有意義で充実した時間だった。
- ・「事前学習」は「議場体験」の前提として、議会を理解するうえで有効と感じた。

5 今後に向けて

(1) 学校の課題・展望・方向性

- ・生徒は毎年変わるので、この方法で実施継続することを期待する。
- ・企画・実施側は、毎年同じ内容を繰り返すことになるが、若干の内容変更はあっても、大きく変化をしないで継続したい。

(2) 議会の課題・展望・方向性

- ・生徒にとって、イメージの湧きにくい事前学習内容のため伝える内容は今後の課題である。
- ・教材の選定等を含めて検討が必要。議会側の目標設定を明確にし、「何を伝えるのか」「生徒にどの部分を理解してもらえれば成果とできるのか」を明確にしてから臨む必要がある。
- ・事前学習の内容（組み立て）は、①芽室町の人口及び年齢構成比（少子高齢化）の現状等②生徒の興味が深いと思われる施策・計画や予算③議会（議員）の質疑や調査の役割、一般質問等総括的に整理し、事前学習から議場体験への連続性を意識して事業充実を目指す。
- ・主権者教育の観点からも今回のような取り組みはとても重要。今後も事業を継続すべき、加えて町との三者連携事業も効果的と考える。
- ・議会側から見ると事業に変化がなく、新たな視点に立った取組等見直しの検討提案も理解するものの、継続性も重要で、対象の生徒は毎年変わるため学校との十分な協議に基づく事業とし、事前学習は今後も継続していくべきと考える。
- ・事前学習の課題は、対応する議員の数と担当議員の選定である。1学年4クラスであり4人の選定を議会運営委員会の構成議員に限定するか、全議員が4年間で輪番にするかなど検討を要する。

6 総括

- ・学校側と協議をし、同じ目的をもって、事業実施に向け今後も取り組んでいく。
- ・3学年対象の事業についても、学校側と協議し今後も取り組んでいく。
- ・議会側の課題は、役割・出役の分担等議員の共通認識。